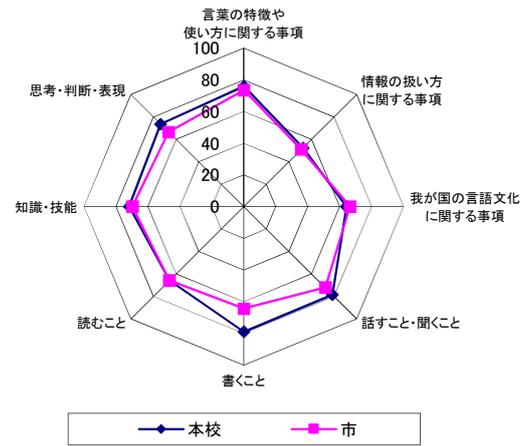


宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	76.0	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	52.4	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	64.3	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	78.6	72.3	73.7
	書くこと	79.0	64.3	66.6
観点別	読むこと	65.9	65.8	64.9
	知識・技能	71.8	69.8	70.8
	思考・判断・表現	73.7	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

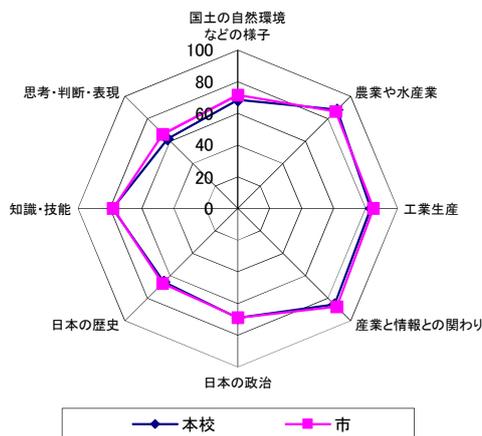
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>本校の正答率は76%で、市の平均を2.5ポイント上回っている。</p> <p>○漢字を読む問題では、いずれも市の平均を1ポイント以上上回っている。しかし、漢字を書く問題では、いずれも市の平均を9ポイント以上下回っている。漢字を書く力に課題が見られる。</p>	<p>●全体の理解度は高いため、引き続き文章を書く活動を取り入れ、学習が身に付くように指導していく。</p> <p>●漢字の書きは、習熟度が低いと、家庭学習や自主学習を基に漢字の力を伸ばしていく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>本校の正答率は52.4%で、市の平均を1.4ポイント上回っている。</p> <p>○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く問題では、平均正答率が54.8%で市の平均正答率より3.5ポイント高かった。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、平均正答率が50%で市の平均正答率より0.7ポイント低く、やや下回った。</p>	<p>●情報を取捨選択し、文章中の情報の整理ができるように、内容の要約や筆者の意図を自分の言葉で文章化できるように、授業で意図的に取り入れていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>和語、漢語、外来語についての理解を確認する問題では、市の平均を2.2%下回っていた。</p>	<p>●和語、漢語、外来語を普段の授業から取り上げるなど、興味をもって学習できるように指導していく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>本校の正答率は78.6%で、市の平均を6.3ポイント上回っている。</p> <p>○自分が聞くこととする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、平均正答率が64.3%で市の平均正答率より17.9ポイント高かった。</p> <p>●話の内容を捉える問題では、正答率が90.5%で高い理解度を示したが、市の平均正答率より3ポイント低かった。</p>	<p>●1分間スピーチなど、日頃から相手が話している内容をよく聞き、聞く力を高めていくための習慣を身に付けていく。インタビューの聞き取りなど、実用性のある取り組みも積極的に行っていく。</p>
書くこと	<p>○本校の正答率は79.4%で市の平均を14.7ポイント上回った。</p> <p>○指定された長さで文章を書くことについては、22ポイント、段落の役割を理解し、2段落構成で文章を書くことについては22.5ポイントと市の平均を大きく上回った。条件に合わせて、構成や内容を考え文章を書く力が伸びている。</p> <p>●情報と情報の関係について理解し、目的に合わせて簡単な文章を書く問題の正答率は市の平均を3.5ポイント上回っているが、54.8%で低かった。情報の関係を捉える力に課題が見られる。</p>	<p>●条件に合わせて自分の考えを書く力を身に着けるため、朝の学習や授業の中で、条件に合わせて文章を書く活動を意図的に設定し、継続して指導していく。</p> <p>●複数の情報を整理し、それらを関連付けて捉える力を育成するため、情報を読みとり、関連付けて文章に表す活動を行っていく。</p>
読むこと	<p>本校の正答率は65.9%で市の平均を1.1ポイント上回った。</p> <p>○物語の登場人物の心情について描写を基に捉える問題では、正答率が85.7%で市の平均を10.5ポイント上回った。心情を表す描写を捉える力が伸びている。</p> <p>●説明文の叙述を基に文章の内容を捉える問題の正答率は42.9%で市の平均を16.7ポイント下回った。叙述に沿って説明文の内容を捉える力に課題が見られる。</p>	<p>●物語の学習では、登場人物の心情を読み取る力を養うため、情景描写に着目させ、人物の気持ちを想像する指導を継続していく。</p> <p>●説明文の内容を的確に読み取る力を育てるため、段落の内容を大まかに捉えさせたり、情報と情報を関連付けながら文章を整理させたりする活動を設定していく。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	68.6	71.6	69.6
	農業や水産業	88.1	86.7	83.7
	工業生産	83.3	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	85.7	87.7	77.4
	日本の政治	69.0	68.9	71.7
	日本の歴史	65.5	66.7	66.3
観点別	知識・技能	78.3	78.0	76.7
	思考・判断・表現	62.2	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

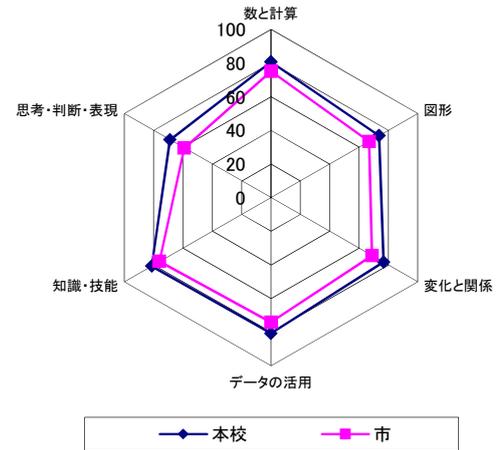
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>本校の正答率は68.6%で、市の平均を3ポイント下回っている。</p> <p>●日本の周辺の海洋名を問う問題の正答率は、6.3ポイント市の平均を下回った。</p> <p>○日本一大きい湖を問う問題では、市の平均とほぼ同じ正答率で、オーストラリアの位置と国旗を問う問題では、85.7%と市の平均を4.6ポイント上回った。</p> <p>●国内の林業が抱える問題では、市の平均より1.9ポイント下回った。</p> <p>●沖縄県での自然環境を守る取組についての問題では、市の平均を11.7ポイントと大きく下回った。</p>	<p>・国土の主な地形や国土周辺の海洋名などを繰り返し復習し、知識の定着を図る。</p> <p>・これからの日本の自然環境とわたしたちの生活についての課題や、今後更に工夫して取り組まなければならない問題について、自分事として捉えられるような指導をしていきたい。</p>
農業や水産業	<p>本校の正答率は88.1%で、市の平均を1.4ポイント上回った。</p> <p>●コメの生産工程を問う問題では、市の平均正答率を5.4ポイント下回った。</p> <p>○コメの生産が盛んな地域を資料から読み取る問題では、市の平均を2.4ポイント上回った。</p> <p>○水産物の流通の工夫について、資料をもとに判断する問題では、市の平均を7ポイント上回った。</p>	<p>・様々な資料を読み取る経験を通して、整理・比較・分析し、正しいものを選択する力を高めたい。</p> <p>・知識の習得だけでなく、背景や課題などを関連付けながら包括的に考えることを通して、思考力や活用力を高めていきたい。</p>
工業生産	<p>本校の正答率は83.3%で、市の平均を1.7ポイント下回った。</p> <p>○自動車の製造工程についての理解は、正答率が92.9%で、市の平均正答率を3.6ポイント上回った。</p> <p>○●工業製品の分類についての理解は、正答率が90.5%で高い理解度を示したが、市の平均正答率を1.7ポイント下回った。</p> <p>●石油製品の工場の位置と日本の石油の輸入量の割合から工場が臨海地域に位置している理由を考える問題では、正答率が66.7%で、市の平均正答率を6.7ポイント下回った。</p>	<p>・図やグラフなどの資料を読み取る活動において、内容を整理したり資料同士で比較しながら読み取る力を高めるとともに、話し合う活動を通して、思考力の向上を図る。特に、日本の輸出品・輸入品については、グラフを読み比べる復習をする。</p>
産業と情報との関わり	<p>本校の正答率は85.7%で、市の平均を2.0ポイント下回った。</p> <p>●情報の発信と受信の注意点について考える問題では、正答率は76.2%で市の正答率を2.9ポイント下回った。</p>	<p>・普段の授業から情報をもとに予想したり、自分たちの生活と情報の関わりを気付かせると共に、情報モラルについて指導する。</p>
日本の政治	<p>本校の正答率は69.0%で、市の平均と同程度であった。</p> <p>○国民の義務についての理解は、正答率が92.9%で市の平均正答率を5.2ポイント上回った。</p> <p>●内閣の働きについての理解は、正答率が40.5%で市の平均正答率を1.9ポイント下回った。</p>	<p>・あまり身近でない項目については、新聞やニュースなどの話題を取り上げ、政治に興味をもたせるとともに、家庭学習等において、自主的な調べ学習を推奨し、学習内容の定着を図る。</p>
日本の歴史	<p>本校の正答率は65.5%で、市の平均を1.2ポイント下回った。</p> <p>○縄文時代の生活について問う問題では、正答率が97.6%で市の平均正答率を13.2ポイント上回った。</p> <p>○大王について問う問題では、正答率が59.5%で市の平均正答率を9ポイント上回った。</p> <p>●源平の戦いの理解をもとに資料を読み判断する問題では、正答率が42.9%で市の平均正答率を12.8ポイント下回った。</p>	<p>・歴史の出来事だけでなく、その背景や意図を十分に理解させた上で、知識の定着を図る。</p> <p>・まとめの新聞やレポート、スライド作りなどを通して、資料を活用したり、要点をまとめたりしながら、自分の言葉で表現する力を育てる。</p> <p>・自主的な調べ学習を奨励し、歴史的事象のつながりや相違点が生まれた理由などについて気付かせて学習内容の理解を図る。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	80.7	75.1	75.8
	図形	73.7	66.8	68.3
	変化と関係	76.7	68.8	65.0
	データの活用	80.7	74.1	63.6
観点別	知識・技能	81.3	76.1	75.8
	思考・判断・表現	68.9	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

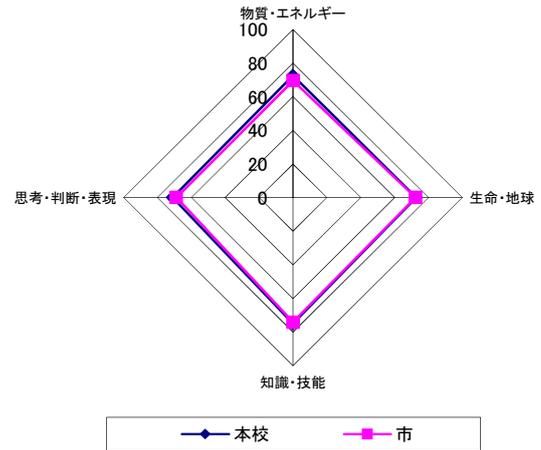
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>正答率は80.7%で、市の平均を5.6ポイント上回っている。</p> <p>○ほぼすべての問題で市の平均正答率を上回っていた。特に、2つの文字を使って表された式、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題では市の平均を11.2ポイント上回った。</p> <p>●分数×分数(約分あり)の計算は市の平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、既習の整数・分数・小数の四則計算の練習を朝の学習や宿題で取り組ませていく。 児童に苦手な分野を確認させ、教科書巻末の「6年間の算数の総まとめ」で補充的学習ができるようにする。復習用教材をプリントして常に用意しておき、それも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。
図形	<p>正答率は73.7%で、市の平均を6.9ポイント上回っている。</p> <p>○ほぼすべての問題で市の平均正答率を上回っていた。特に三角形の内角の和180°であることを理解し、2つの角が与えられた三角形の外角を求める問題の正答率は83.7%で、市の平均を11ポイント上回った。</p> <p>●合同な三角形を作図する問題の正答率は86%であったが、市の平均を2.3ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図形の作図については、三角定規やコンパスを適切に使い、様々な方法で正確にできるよう各学年で丁寧に扱っていくようにする。
変化と関係	<p>正答率は76.7%で、市の平均を7.9ポイント上回っている。</p> <p>○すべての問題で市の平均正答率を上回っていた。特に、表から面積と数の割合を求め、小屋の込み具合について考察をするという、「単位量あたりの大きさ」を比較し考える問題では、市の平均正答率より15ポイントも高かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 社会や理科などの他教科や、日常生活に関連付け、人口密度や物の割合などを求める場面を設定し、単位量あたりの大きさの計算の習熟をさらに図っていく。 速さ・道のり・時間の関係を十分に理解させ、速さと道のりから時間を求めたり、道のりと時間から速さを求めたり、必要に応じて速度を秒速や分速、時速に変換したりできるよう、問題に十分に組みませ、習熟を図りながら応用力を高めていくようにする。
データの活用	<p>正答率は80.7%で、市の平均を6.6ポイント上回っている。</p> <p>○ドットプロットから中央値を求める問題では、市の平均正答率より6.2ポイント、平均を求める問題では、10.9ポイント上回った。</p> <p>○問題の場面を理解して平均値を使って計算し、さらに解答の求め方を説明する問題の正答率は80.5%で、市の平均正答率より18.9ポイントも上回った。</p> <p>●最頻値を求める問題では、市の平均正答率より1.5ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習や宿題等で、ドットプロットと様々な代表値についての復習問題に多く取り組ませ、学習内容を確実に理解するよう指導を継続していく。 様々な課題の内容を正確に把握し、計算方法を図や文章で表す機会を設定し、今後もさらに習熟を図っていく。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	72.6	69.5	65.2
	生命・地球	72.7	72.3	70.1
観点別	知識・技能	74.9	74.0	70.7
	思考・判断・表現	71.0	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>正答率は72.6%で、市の平均正答率を3.1ポイント上回っている。</p> <p>○「ふりこのきまり」「物の燃え方」は、全ての問題で市の平均正答率を上回っている。</p> <p>○●「物のとけかた」では、溶解度の差については、正答率は87%で市の平均正答率を9ポイント上回っている。ろ過も市の平均正答率を0.6ポイント上回っている。実験の正しい理解と論述力については、市の平均正答率を下回っている。</p> <p>●「水よう液の性質」では、71.7%で市の平均正答率を2.5ポイント下回っている。食塩水など水溶液自体が溶けた時に、どのような性質をもっているかということが正しく理解できていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手な分野を確認させ、復習用プリント等を活用し、補充的学習ができるようにする。 ・実験に際して、授業の流れをパターン化し、定着を図る。 ・実験結果と考察を自分の言葉でまとめられるように、科学的思考力とともに考えを表現する言葉の力も育てていく。
生命・地球	<p>正答率は72.7%で市の平均正答率を0.4ポイント上回っている。</p> <p>○「動物のからだのつくりとはたらき」「生物とかんきょう」は全ての問題で市の平均を上回っている。</p> <p>●「流れる水のはたらき」では、全ての問題で市の平均正答率を下回っている。侵食を含めた自然一般の原理法則の理解が低い傾向である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・習得すべき知識を明らかにし、学習内容の定着を図る。 ・プリントを利用したり、実験などの具体的操作や視覚的な教材等を活用したりする。 ・児童の興味・関心を引き出し、目的を明らかにして実験に取り組めるようにする。因果関係の理解(考察・まとめ)では、多様な意見を尊重しながら結論を導くようにする。

宇都宮市立御幸が原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	4月に「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた家庭学習の時間の目安や内容の提示と啓発 5月、1月に「家庭学習強化週間」を実施し宿題や自主学習の習慣化や取り組み方の周知	宿題への取組については、市の平均との比較については学年ごとにはばらつきはあるものの、85%から97%の範囲内でしっかり取り組める結果であった。自分で計画を立てて家庭学習へ取り組むことについても5年生以外は市の平均を上回った。
主体的に学びに向かう授業のデザイン	見通しをもって粘り強く取り組めるような課題の設定や提示の仕方の工夫 成果や自分の成長、つまずきを実感できるような振り返りの工夫	3年生以上での「学習した内容についてよく見直し、次の学習へつなげることができる」への肯定的回答が、どの学年でも市の平均を下回っており、自分の学習での振り返りや見直し・復習が十分ではなかった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・「家庭学習強化週間」の実施
5月と1月に1週間程度実施し、5月には家庭学習の習慣化を目指した内容や時間の提示を行う。1月には良い自主学習の取組を学年に応じて紹介するなどして自主学習の呼びかけと共に内容の充実も図る。
- ・「漢字オリンピックテスト」の実施
既習漢字を書く問題に課題が見られたので、次年度も学期に1回、全学年でほぼ同時期に漢字のまとめテストを「漢字オリンピックテスト」として実施する。家庭にも実施を周知し、特に2度目の「家庭学習強化週間」は実施時期を調整し、保護者の見守りや励ましの下、家庭学習においても十分練習できるよう配慮する。
- ・振り返りの工夫
振り返る内容を言葉の例として「振り返りのヒントカード」を発達段階に応じて作成し、各教室に配付したことで、授業での振り返りの意識付けになった。しかし、自分の学びの見直しや次の学習へつなげる気付きのための活用までには至らなかった。児童自身が、できるようになった自分の成長に気付いたり、できなかったことを自分から復習したりすることができるよう振り返りの活動を工夫していきたい。